

## 連載 ただいま！また会える場所で『こんなものに負けない』

筆者 帝京大学 教育学部 齊藤 朱

「ちょうど70歳になったとき、何か新しいことを始めようと思って。楽譜が読めなくても楽器ってできるんだろうか・・・」

そう話してくれたのはハーモニカサークルに所属する70代男性Kさん。公民館と出会って8年になる。Kさんのサークルは、6人と少人数であるが精力的に活動をしている。この日もサークル活動があるなか、快くインタビューに答えてくれた。

### 一つのことをずっと

公民館でハーモニカに出会うまで、仕事と剣道一筋で、警察庁に勤めていたKさん。父の影響を受け、小学校4年生からずっと剣道をしている。現在は、都内にある剣道連盟の名誉会長として後輩の指導にあたっている。

「あぁーいいなと思ってすぐ入っちゃった。」

Kさんは笑いながら、サークルに入る決断をした当時を振り返った。きっかけは、奥さんの太極拳仲間であり、ハーモニカサークルにも所属する方からのお誘いであった。「楽譜が読めなくてもハーモニカは吹けるんです」と聞き、奥さんと2人で体験しに行った。ゼロから始めたハーモニカも、今では大好きな『東京だヨおっかさん/島倉千代子』が吹けるようになり、自分自身が楽しくなったという。

上達の秘訣——下手でも続けること。一つのことをずっと・・・。  
必ず上達しますから。」

一度やると決めたことを、諦めず続けてきたKさんの芯の強さを感じた。

### 「また来てよー！」の聲が聞きたくて

サークル活動のやりがいについて尋ねると、Kさんはボランティア活動のことを答えてくれた。新型コロナウイルスの感染が拡大する前、Kさんのサークルでは、定期的に老人ホームを訪問し、演奏を行っていた。曲に合わせて入居者の方々が歌い出したり、涙ぐんだり、「また来てよー！」と手を握ったりしてくれた。「来てよかったな。こういう世界もあったんだなと思いました」と音楽の訴える力について語る。状況が落ち着いたらまた行きたいと話してくれた。

## 病気に負けない

政府からの緊急事態宣言を受け、日野市中央公民館は4月から約2か月間臨時休館となり、Kさんのサークルも活動休止を余儀なくされた。休館中は、秋の発表会に向けて自宅で練習をしていたという。

2020年で30周年を迎えた秋の発表会。新型コロナウイルスの影響により中止が決まった。しかし、kさんは負けない。来年の発表会に向けて既に仲間との練習に励んでいる。

「病気に負けないという気持ちですかね。こんなものに負けないよと。」

インタビューをしたこの日、午後の自主練習は自由参加であったが、メンバー全員が参加した。新型コロナウイルスの影響に打ち勝とうと努力する姿勢が印象的だった。活動休止や発表会中止を経て、サークル全体の士気が高まっているように筆者は感じた。

## 嬉しい「さいかい」

「今回こういうことになって、初めて、あーありがたいな。と反省の場を与えられましたね。本当に再開して嬉しかったです。」

公民館への感謝の気持ちを語るkさん。公民館はみんなが集う大事な場所であると話してくれた。休館中、メンバーとは電話で連絡をとっていたが、皆が集う公民館に足を運ばず、とても寂しかったという。休館後、初めての練習にはメンバー全員が参加し、笑顔で再開の喜びを分かち合った。

インタビューが終わり、来年の発表会に向けて、自主練習に励む仲間のもとへ戻っていくkさん。その一歩はとても力強いものだった。